

京都市告示第391号

京都市名誉市民表彰条例の規定に基づき、令和元年10月15日付けで次の者を京都市名誉市民として表彰しました。

令和元年10月16日

京都市長 門川大作

氏名 中西 進

1 略歴

昭和28年3月 東京大学文学部卒業

昭和30年3月 東京大学大学院文学研究科修士課程修了

昭和34年3月 東京大学大学院文学研究科博士課程修了

昭和45年4月から

成城大学文芸学部教授

昭和59年3月まで

昭和59年4月から

筑波大学歴史人類学系教授

昭和62年5月まで

昭和62年5月から

国際日本文化研究センター教授

平成7年3月まで

平成3年9月から

文化庁国語審議会委員

平成10年7月まで

平成7年4月 国際日本文化研究センター名誉教授

平成7年4月から

帝塚山学院大学教授、国際理解研究所所長

平成9年3月まで

平成9年4月から

大阪女子大学学長

平成13年5月まで

平成9年7月から

日本学術会議会員

平成17年9月まで

平成13年6月から

帝塚山学院理事長・学院長

平成15年12月まで

平成15年4月から

日本ペンクラブ副会長

平成27年3月まで

平成16年4月から

京都市立芸術大学学長

平成19年3月まで

平成16年9月から

文部科学省中央教育審議会委員

平成21年1月まで

平成17年4月から

京都市景観・まちづくりセンター理事長

平成19年3月まで

平成19年4月

京都市立芸術大学名誉教授

平成19年4月から

京都市中央図書館長

現 在まで

平成20年6月から

京都市右京中央図書館長

現 在まで

平成23年4月から

池坊短期大学学長

平成24年3月まで

平成23年12月から

高志の国文学館館長

現 在まで

2 受賞

昭和39年	読売文学賞
昭和45年	日本学士院賞
平成2年	和辻哲郎文化賞
平成8年	アジア・太平洋出版連合（APPA）出版賞金賞
平成9年	大佛次郎賞
平成14年	京都新聞文化賞
平成16年	奈良テレビ放送文化賞，文化功労者
平成17年	瑞宝重光章
平成20年	京都市市政功労者特別表彰
平成22年	菊池寛賞
平成24年	アカデミア賞
平成25年	文化勲章，富山県特別栄誉賞
平成27年	京都市特別功労賞

3 業績

氏は、我が国を代表する国文学者として、日本人の心の古典であり、元号「令和」の原典ともなった「万葉集」について、漢籍との比較文学手法を用いた研究を行うなど、万葉学研究の第一人者として活躍されているほか、数々の古典の研究・評論活動を通じ、古典から日本人の心と文化を考察するなど、文化人類学における輝かしい業績を積み重ねている。

また、国際日本文化研究センター教授をはじめ数多くの要職を歴任され、我が国の学術文化の発展に多大な貢献をされている。本市においても、京都市立芸術大学学長として、大学の将来構想を策定し、大学の発展に尽くされるとともに、京都市景観・まちづくりセンター理事長、京都市中央図書館長及び京都市右京中央図書館長を務めるなど、文化を基軸とした京都のまちづくりに大きく寄与された。

氏 名 今 井 政 之

1 略歴

昭和22年3月 広島県立竹原工業学校卒業

昭和27年5月から

楠部彌弍に師事

昭和59年12月まで

昭和42年7月から

京都府美術工芸家協会理事

昭和46年6月まで

昭和51年3月から

日展評議員

平成10年5月まで

平成元年8月 ペルー共和国クスコ美術学校客員名誉教授

平成10年6月から

日展理事

平成16年5月まで

平成15年12月 日本藝術院会員

平成16年6月から

日展常務理事

平成22年6月まで

平成16年6月から

京都府文化財団理事

現 在まで

平成22年6月から

日展顧問

平成30年3月まで

平成23年10月 中国高嶺杯国際陶磁美術大賞展日本代表審査員

平成24年10月から

京都工芸美術作家協会顧問

現 在まで

平成28年7月から

京都市芸術文化協会顧問

現 在まで

平成30年3月 日展名誉顧問

2 受賞

昭和40年	日本陶磁協会賞
平成3年	広島文化賞
平成5年	京都府文化賞功労賞，紺綬褒章
平成6年	京都市文化功労者
平成7年	毎日芸術賞
平成10年	日本藝術院賞
平成15年	広島県地域文化功労者
平成17年	やましな栄誉賞
平成19年	紺綬褒章（同年に3回受賞）
平成20年	京都府文化賞特別功労賞
平成21年	旭日中綬章，紺綬褒章
平成23年	中国文化賞，文化功労者
平成24年	広島県竹原市名誉市民
平成25年	紺綬褒章
平成26年	紺綬褒章
平成30年	文化勲章，広島県名誉県民
令和元年	京都府特別感謝状，紺綬褒章

3 業績

氏は、備前で陶芸の修行に入り、京都において初代勝尾青龍洞氏、本市名誉市民である楠部彌弑氏らに師事し技を磨かれた。京都西芳寺の多彩な苔の色合いから着想を得られた釉薬である「苔泥彩^{たいでいさい}」の開発のほか、素地に収縮率の異なる色土を広い範囲で嵌め込んで焼く「面象嵌^{めんぞうがん}」の技法を確立されるなど、永年にわたり新しい手法への挑戦及び研究を重ねてこられた。花鳥風月を自然そのままの躍動感をもって焼き物に宿らせるその高い技術力と芸術性は世界中から高く評価されており、京都のみならず我が国を代表する陶芸家として活躍されている。

また、日本藝術院会員、日展常務理事をはじめ要職を歴任され、本市においても、京都市芸術文化協会顧問を務めるなど、後進の育成及び芸術文化の発展に多大な貢献をされている。

氏名 長尾 貞

1 略歴

昭和34年3月 京都大学工学部卒業

昭和36年3月 京都大学大学院工学研究科修士課程修了

昭和36年4月から

京都大学工学部助手

昭和42年3月まで

昭和41年11月 京都大学工学博士

昭和42年4月から

京都大学工学部講師

昭和43年10月まで

昭和43年11月から

京都大学工学部助教授

昭和48年9月まで

昭和44年9月から

フランス・グルノーブル大学客員教授

昭和45年8月まで

昭和48年10月から

京都大学工学部教授

平成9年12月まで

昭和61年4月から

京都大学大型計算機センター長

平成2年3月まで

平成3年6月から

機械翻訳国際連盟設立・初代会長

平成6年5月まで

平成6年4月から

言語処理学会設立・初代会長

平成8年3月まで

平成7年4月から

京都大学附属図書館長

平成9年3月まで

平成8年1月から

京都大学総長特別補佐

平成9年3月まで

平成9年4月から

京都大学大学院工学研究科長・工学部長

平成9年12月まで

平成9年12月から

京都大学総長

平成15年12月まで

平成15年12月 京都大学名誉教授

平成16年4月から

情報通信研究機構理事長

平成19年3月まで

平成19年4月から

国立国会図書館長

平成24年3月まで

平成25年6月から

京都市音楽芸術文化振興財団理事長

現 在まで

平成26年12月から

日本学士院会員

現 在まで

平成27年4月から

国際高等研究所所長

平成30年3月まで

平成28年4月から

京都府公立大学法人理事長

平成30年3月まで

2 受賞

昭和52年	情報処理学会論文賞
昭和54年	情報処理学会論文賞
昭和58年	情報処理学会論文賞
昭和61年	電子情報通信学会業績賞
平成5年	IEEE E. R. Piore Award, 電子情報通信学会功績賞
平成6年	京都新聞文化賞
平成9年	情報処理学会功績賞, 機械翻訳国際連盟栄誉賞, 紫綬褒章
平成11年	日本放送協会放送文化賞, 英国ノッティンガム大学名誉博士
平成12年	IEEEフェロー
平成16年	フランス・レジオンドヌール勲章
平成17年	日本国際賞
平成20年	文化功労者
平成24年	京都市特別功労賞
平成30年	文化勲章

3 業績

氏は、永年にわたり画像及び言語の情報処理の研究に力を注ぎ、郵便番号の自動読取装置に使われた手書き文字の認識方式、顔画像認識における人工知能的手法による画像認識及び文書処理の基礎となる言語処理の様々なアルゴリズムについて考案されるなど数々の先駆的な研究で世界を^{けん}牽引し、現在に至るまで高度情報化社会の構築と将来の可能性を大きく広げてこられた。

また、京都大学総長、情報通信研究機構理事長、国立国会図書館長をはじめ要職を歴任され、我が国の英知の発展に多大な貢献をされている。

本市においても、京都市スーパーテクノロジー構想推進戦略会議メンバー、大学のまち・京都推進懇談会座長及び京都市音楽芸術文化振興財団理事長として、その豊かな経験と高い見識により、産業・教育・文化と幅広い分野において本市のまちづくりに大きく寄与された。

(総合企画局市長公室)